

季刊

弥生の出雲王に出会える



# 出雲弥生の森博物館だより

## IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM



よすみちちゃん

第22号

(2016年7月)

★夏季企画展

「出雲の武将 塩冶判官高貞

—その実像と虚像—

7月30日(土)～9月26日(月)

【入場無料】

塩冶高貞は、出雲で生まれ育つた南北朝時代(およそ七〇〇年前)の武将です。

今回の企画展では、塩冶高貞とその一族について、多様な観点から考えてみたいと思います。また、後世の人びとが『仮名手本忠臣蔵』などで語った「高貞」像についても考えます。

【展示概要と主な展示品】

### 1 「塩冶高貞」の実像と虚像

『太平記』には、高貞が後醍醐天皇や足利尊氏に従ってあげた多くの戦功や、謀叛の疑いをかけられた悲壮な最期が語られています。しかし、『太平記』は脚色された軍記物語で、必ずしも実際の高貞の姿を伝えているわけではありません。一方出雲では、高貞が亡くなつて八五年後には「高貞社」に神として信仰され、塩冶氏滅亡後も地域の人びとにまつられ続け

ました。「高貞」とは、どのような人物だったのでしょうか。

- 『太平記』巻二十一
- 『某昌本寄進状』

(富家文書)

### 2 「高貞」とその一族が生きた時代 — 中世の出雲 —

中世出雲を支配した塩冶氏について、その居館や城など、具体的な支配の様子は明らかでなく、考古学の成果を中心に考えます。

- 築山遺跡出土青磁酒会壺など
- 蔵小路西遺跡出土青磁双魚文盤など

○出雲佐々木塩冶古志之系図 (影写本) など関係史料

### 3 塩冶高貞の生涯

出雲市出身の画家・平野勲氏が描いたイラストで、高貞の生涯をご紹介します。

○「塩冶太平記絵巻」

(平野勲氏画)

### 4 後世の人びとが描いた「高貞」

江戸時代の浄瑠璃や歌舞伎などでは、赤穂浪士事件をモチーフにした『忠臣蔵』で高貞をモデルにして浅野内匠頭が描かれます。当

時の人びとは高貞をどのように語り、描いたのでしょう。

- 『仮名手本忠臣蔵』
- 『太平記忠臣講釈』

### 5 今に残る高貞ゆかりの史跡

- 神門寺・塩冶高貞供養塔
- 浄音寺・塩冶氏塔
- 宍道町・塩冶判官高貞之碑
- 加古川市・七騎供養塔

\*展示構成は一部変更する場合があります。

●関連講演会

【聴講無料】

8月27日(土) 14時～16時

「塩冶氏と中世出雲」

【講師】長谷川博史氏

(島根大学教授)

9月17日(土) 14時～16時

「後塩冶氏と京都系土師器皿」

【講師】高橋 周(当館)

※事前申し込み必要



塩冶高貞供養塔(神門寺)

★特集 研究ノート⑩企画展  
塩冶氏の館はどこか？

今夏の企画展で取りあげる塩冶氏は中世の出雲平野を支配し続けた一族ですが、その実態については分からないことが多くあります。その一つが、塩冶氏の館はどこにあったのかということなのです。

この謎をめぐっては、上塩冶町築山地区と塩冶町高西の浄音寺境内の二つの説が示されています。

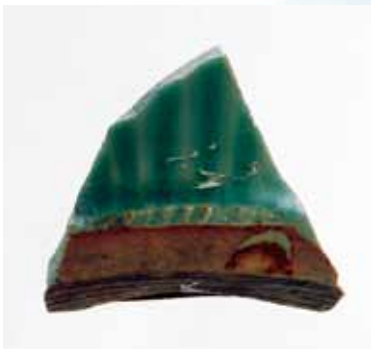
まず築山地区については、塩冶氏が勧請したとされる八幡宮（現在の塩冶神社）と「高貞社」が注目されます。高貞が亡くなって八五年後には「高貞社」があったことが分かり、八幡宮とともに塩冶氏の精神的拠点であったと考えられます。付近の築山遺跡では、塩冶氏が支配した時期の複数の館に関する遺構や高級な陶磁器が見つかっていて、考古学的にも塩冶氏に関する館があった可能性が高いことを示しています。

一方、浄音寺は後塩冶氏の塩冶豊高の開基と伝えられる寺院です。境内には大きな土塁が残り、その外側には濠があったとされ、周辺には約一〇〇m四方の区画が

現在も確認できます。浄音寺は江戸時代に現在地に移転したとされ、考古学的な調査は行われていませんが、塩冶氏の大規模な館であった可能性が高いといえます。中世では、交通や経済の拠点であることも館を置く上で重視されました。浄音寺は、北側に旧石州街道（山陰道）が通り、さらに神戸川にも近く、交通の便に優れた立地といえます。

このように塩冶氏の館をめぐると二つの説は、いずれも可能性が高いものです。塩冶氏は惣領家を中心に、複数の庶子家によって支配を行っており、館が複数存在したことも考えられます。したがってこれらの館跡は、出雲平野を支配する上で機能ごとの拠点として置かれたと考えることができるでしょう。

（高橋 周）



築山遺跡で出土した  
高級な陶磁器「酒会壺」の破片

★ギャラリー展示  
「文化財保護のお仕事」  
〜仏像編〜



阿弥陀如来立像

文化財は、私たちの国や地域の歴史や文化を知り、未来へつなげていくとても貴重な財産です。その貴重な文化財を守るために、調査・指定・保存・公開といった仕組みがつけられています。

出雲市内にもさまざまな種類の文化財があります。今回はその中から、仏像を紹介します。市内には、貴重な仏像が数多くあり、指定文化財となっているものも少なくありません。

今回の展示で紹介している仏像の一つに、出雲市東神西町にある十楽寺の木造阿弥陀如来立像があります。この仏像は、鎌倉時代の作で、高さ90.2cmの三尺阿弥陀と呼ばれるもので、平成27年に市指定文化財になりました。鳥根県内で、県・市の指定を受けた三尺阿弥陀としては6例目、出雲市では初です。

三尺阿弥陀は、臨終に際して枕元に運び極楽往生を祈る仏像です。

十楽寺の阿弥陀如来像は、表面の所々に金箔が残っており、元は金色の仏像だったことがわかります。しかし、長い年月を経たことで、かなり傷んでいました。そこで、貴重な仏像を未来へ残し守っていただくために、専門の職人の手で修復が行われました。汚れを落とし、剥がれ落ちた漆を塗り直し、欠けているところを新たに補うなどの処置を施しました。

その際、修復のために解体した仏像の中から、古文書が発見されました。この古文書には、元禄7年（1694）に行われた修復の記録が書かれており、大変貴重なものでした。

今回の修復記録は、仏像内に納めてあります。何百年後再び修復が行われた際は、注目をあびることでしよう。

（安部百合子）



発見された古文書

★指定文化財紹介⑭  
国指定天然記念物

『経島ウミネコ繁殖地』

出雲市大社町日御碕にある経島<sup>かみしま</sup>は、ウミネコの繁殖地として国の天然記念物に指定されています。



経島に飛来したウミネコ(3月)

ウミネコの繁殖行動は気温や風雨など自然環境に左右されやすいため、文化財保護の観点から出雲市では毎年3月から5月にかけてウミネコの生態調査を行っています。今年の調査結果は次のとおりです。

■3月24日 飛来数調査

ペアとなったウミネコが縄張りを決めて巣作りをするため、経島に定着する3月に、ウミネコの飛来数を数えます。

◎飛来数1157羽

(昨年934羽)

■4月22日 産卵数調査

産卵は例年4月中旬頃にピークを迎えるため、この時期に産卵数を調査します。調査では4㎡区画

×85㎡340㎡を対象とし、1つ1つの巣に何個の卵があるか数え、産卵の進み具合を確認します。

◎産卵数339個(昨年402個)

■5月20日 ふ化数調査

卵は雌雄が交代で抱卵し、約25日でふ化します。産卵調査から1月後にふ化したヒナの数と未ふ化の卵を数えます。

◎ふ化数8羽(昨年797羽)

◎残卵数495個(昨年129個)



卵を抱く親鳥(4月)



ふ化したヒナ(5月)

今年の調査では、気温が低い日が多く、暴風雨の影響もあり、産卵は過去最少で、ふ化数もかなり少ない状況でした。5月の調査時点でも多くの残卵数があり、繁殖時期が全体的に遅れているようです。これから暖かくなればふ化のピークを迎え、かわいいヒナで経島が賑やかになることを期待しています。

(柳樂雅重)

★書籍販売のお知らせ

出雲市の文化財報告 第31号

「杉沢遺跡・杉沢Ⅱ遺跡・杉沢横穴墓群」

杉沢横穴墓群

杉沢遺跡等は、平成24～26年度に実施した出雲斐川中央工業団地造成に伴う発掘調査で、荒神谷遺跡と同じ時代の集落や、古代山陰道と考えられる道路遺構が見つかった遺跡です。このたび発刊した報告書は、これらの調査成果をはじめ、弥生時代の集落遺跡や古墳時代終末期の横穴墓群、古代山陰道についての考察を含む内容となっています。また、過去に調査した三井Ⅱ遺跡の瓦窯も取りあげています。

販売価格 3,000円

販売部数 100冊限定

購入方法

○直接購入の場合

当館ショップで販売

○郵送での購入の場合

電話・FAX・メールで受け付けています。詳しくは、お問い合わせください。

電話 21・6893

FAX 21・6617

ぜひ、この機会にお買い求めください。

なお、出雲市では、平成27年度に左記の書籍を刊行しました。これらについては、出雲市内の各図書館で閲覧できます。

平成27年度発刊『出雲市の文化財報告』

「立岩小丸砦跡」一般県道三刀屋佐田線朝原2工区道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(第29号)

平成26年度に佐田町地内で実施した埋蔵文化財調査の報告書。当初想定していた中世山城跡・砦跡としての積極的な根拠は見いだせなかったが、古代から近代にかけての幅広い時期の遺物が確認された。

シンポジウム記録集「古代山陰道」を考える  
—杉沢遺跡道路遺構発見の意義—(第30号)

平成27年2月に開催したシンポジウムの記録集。杉沢遺跡や青谷上寺地遺跡(鳥取県)の古代の道路遺構の事例発表のほか、全国的な事例から見た杉沢遺跡の評価、今後の整備や活用に向けた提言を集約した。

## ★博物館イベントのご案内

## 「将棋フェスティバル」開催

7月31日(日)

## 「プロ棋士指導対局」

9時～12時

指導棋士 大石直嗣六段

長谷川優貴 女流二段

## 「第6回 里見香奈杯争奪」

出雲弥生の森ジュニア将棋大会

13時～17時

参加は、いずれも事務局への事前申し込みが必要です。

7月6日(水)必着

(見学は自由です。)

お問合せ…大会実行委員会事務局

【電話】21・7580

## 「弥生の森お月見コンサート」

9月22日(木・祝)18時～

秋の一夜、お月見と素敵な演奏で癒しのひとときをお過ごしください。  
(弥生の森おまつ主催)

前売券 500円

当日券 700円

(中学生以下無料)

8月上旬から発売予定。

お問合せ…

大津コミュニティセンター

【電話】21・0172



## ★館長講座 予告

第1回 9月10日(土)

「考古学と御雇外国人」(仮)

第2回 11月12日(土)

「考古学とお墓」(仮)

第3回 1月14日(土)

「考古学と戦争」(仮)

【講師】渡邊貞幸(当館館長)

●時間 14時～16時

●受講料 300円 ●定員 80名

## ★博物館アテンドコーナー

## 「西谷の丘をドローンが飛ぶ!」

博物館アテンドです。

春の「出雲弥生の森まつり2016」

では出雲コアカレッジのご協力を

得て今話題のドローンを使い、出

雲王の墓「よすみ」を空撮し、ラ

イブ映像を来館者のみなさまに満

喫していただきました。

博物館から飛びたったドローン

は、史跡公園上空を飛行した後、

無事に博物館に帰ってきました。

当日は絶好の撮影日和。鮮やか

な映像と感動を届けてくれました。

スクリーンに映しだされた「よ

すみ」の映像は大好評でした。ド

ローンを使った弥生の森PR動画

は、当館HPの「動画配信」から

ご覧いただけます。

## ★館長コラム⑱



明治時代に、山口県の有名な鍾乳洞「秋芳洞」を調査して海外に紹介した英国人がいた、という話をKさんから聞きました。名前はエドワード・ガントレット。音楽家でもあり、山田耕筈の姉と結婚して若き日の耕筈に大きな影響を与えた人物だそうです。

この話を聞いて、突然60年余り前のことを思い出しました。東京にいた小学生のとき、私はガントレットという老紳士に英語を習っていたのです。先生が体調を崩されるまでの短い期間でしたが。

過日、私は幼い日の記憶をたどってガントレット先生の家があつた場所に行ってみました。そこには今、日本キリスト教婦人矯風会の本部ビルが建っています。本部を訪ねて話を伺ったところ、かつてその場所に住んでいたガントレット先生の奥様が山田耕筈の姉であり、彼女は矯風会の中心的活動家だったことを教えられました。Kさんの言うガントレットと私の知っているガントレット

は、間違いなく同一人物だったのです。

ガントレットは明治23年に宣教師として来日し、日本各地の学校で英語、ラテン語、さらにエスペラントを教えただけでなく、速記やパイプオルガンも教えた多才で偉大な教育者でした。英国王立地理学会の会員でもあり、秋芳洞の調査のほか自然景観の保全にも力を尽くしました。

ガントレットは晩年、夫人が幹部だった矯風会の所有する土地に住み、近所の子供に英語を教えて過ごしました。つまり私は、ガントレットの最後の教え子だったのです。  
(渡邊貞幸)

## 【発行】出雲弥生の森博物館2016年7月

〒693-0011 島根県出雲市大津町 2760

(TEL)0853-25-1841 (FAX)0853-21-6617

(E-mail) yayoi@city.izumo.shimane.jp

http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

●入館料 / 無料

●開館時間 / 9:00～17:00(入館は16:30まで)

●休館日 / 火曜日(祝日の場合は翌平日)・年末年始